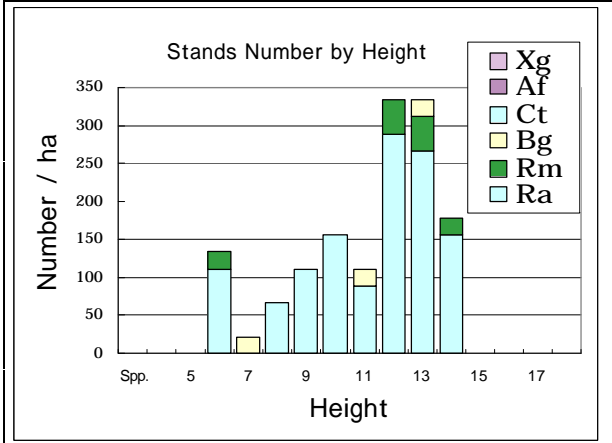


図 2-2U-17 樹高別立木本数 (Plot A:No33, Comp. M15)



	Low	Mid	Tall	High	Total
Ra	178	356	711	0	1244
Rm	22	0	111	0	133
Bg	22	22	22	0	67
Tot	222	378	844	0	1444

図 2-2U-19 樹高別立木本数 (/ha) Plot B 101M7

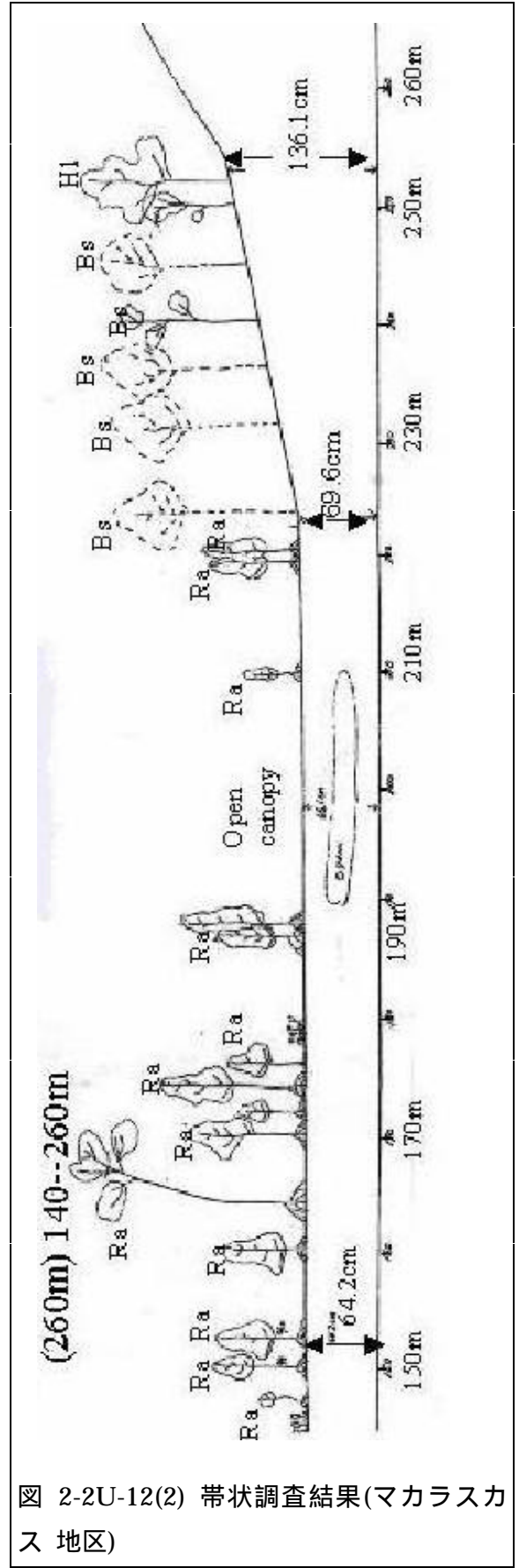


図 2-2U-12(2) 带状調査結果(マカラスカス 地区)

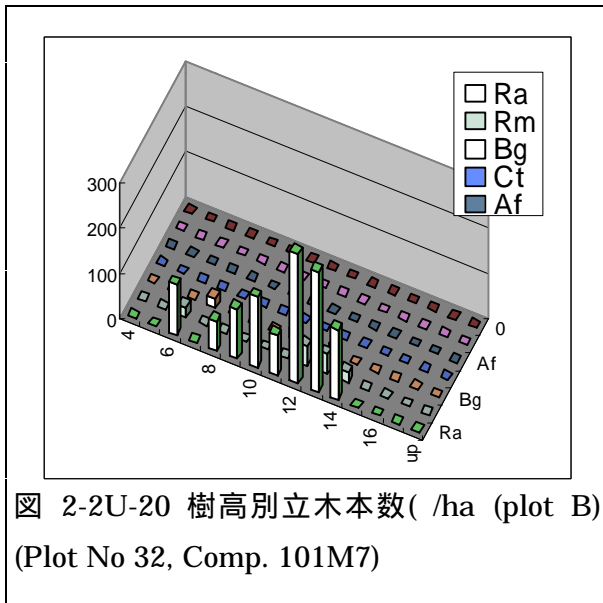


図 2-2U-20 樹高別立木本数( /ha (plot B)  
(Plot No 32, Comp. 101M7)

次にこのようなマングローブ林での標本調査の結果を示す。最初の例はタラナヤン湾で観測された海岸の *R. apiculata* 林である。標本地は海岸から 15m の場所で設定された。樹高は 8-10m の小径木で疎密度 100%と完全に閉鎖した *R. apiculata* のみの密な林分となっている。

図 2-2U-14 に標本地位置(Plot A)を、図 2-2U-15 及び 16 に直径別、樹高別の本数構成をグラフで示す。胸高直径 14cm を最も多い階層として合計 ha 当たり 2050 本が数えられた。樹高は 7-10m でラモン湾地域の先駆地帯の *Rhizophora* 属に比べ遙かに高い。プロット B は図 2-2U-14 にある通り plot A より内部に 100m あまり入り込んだ *R. apiculata* の林分である。内部にはいると樹高、直径とも大きな林分が変わる。図 2-2U-17 及び 18 に直径別、樹高別の本数を示す。樹種構成には *R. mucronata*, *B. gymnorrhiza* がわずかに含まれている。

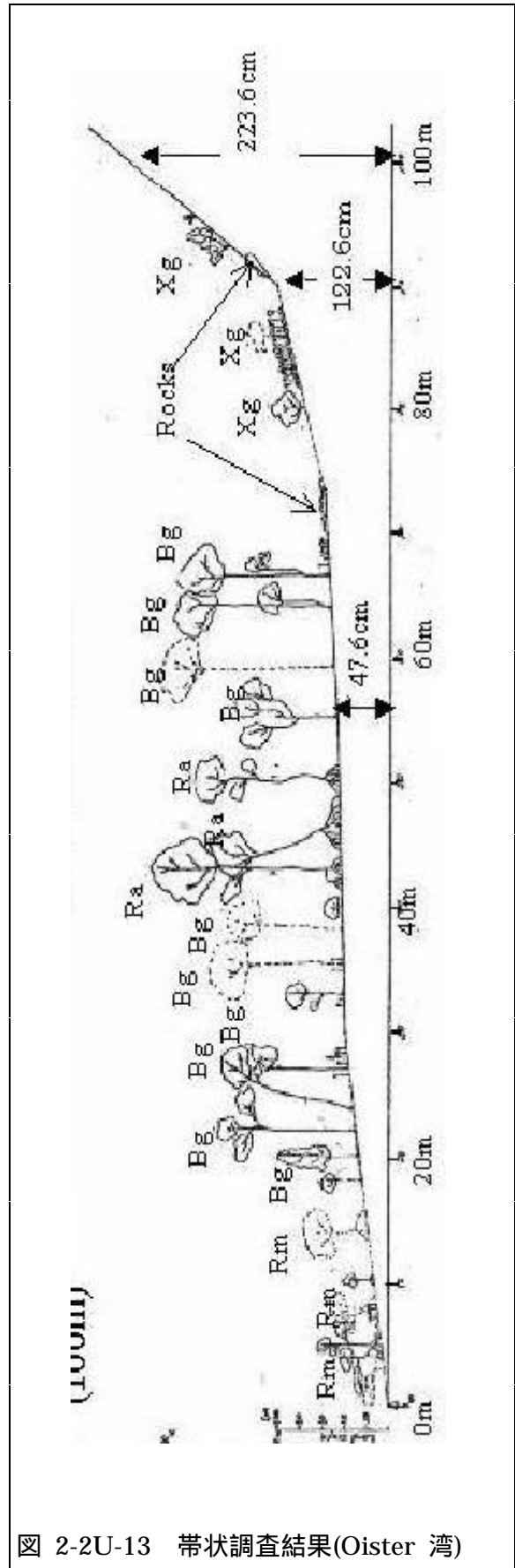


図 2-2U-13 带状調査結果(Oyster 湾)

次の標本地は海岸から 50m ほど陸へ向かって中に入った場所に成立している老齢木の *B. gymnorrhiza* 林分及びこれに続く陸域 *R. apiculata* の二つのタイプの代表的例である。樹高は 14-22m に及び材積はどちらの標本地も 250m<sup>3</sup> を超すウルガン湾地域の一次林の姿を示している。

標本地はマカラスカス地区のラダサン川河口部分の北側に広がる老齢林分内に設定されている。図 2-2U-21 に標本地位置を示す。プロット A は中潮位地帯の *R. apiculata* の林分、プロット B は海岸線近

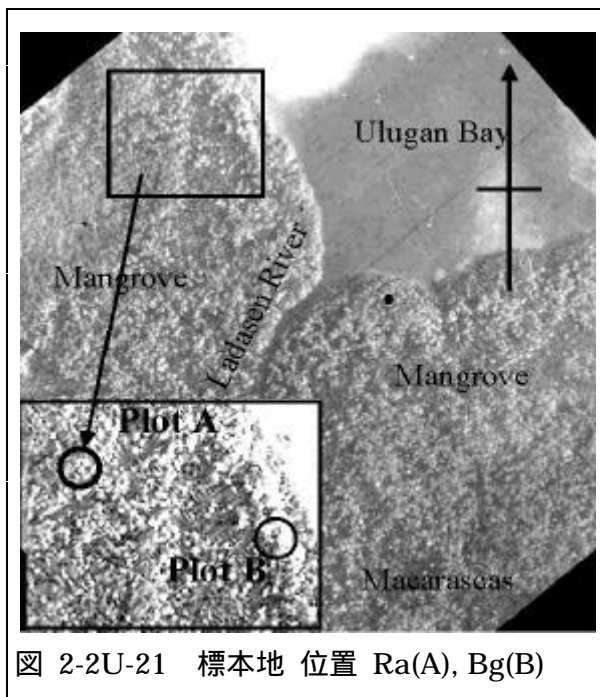
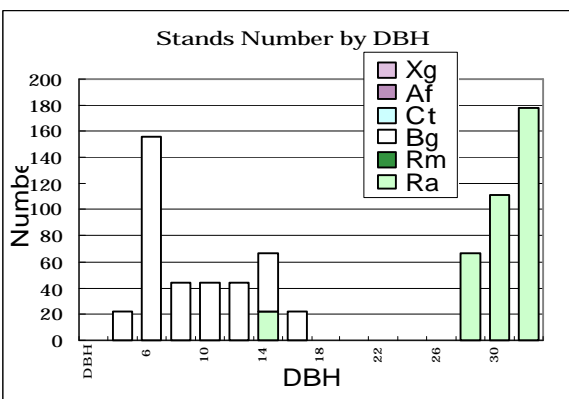


図 2-2U-21 標本地位置 Ra(A), Bg(B)

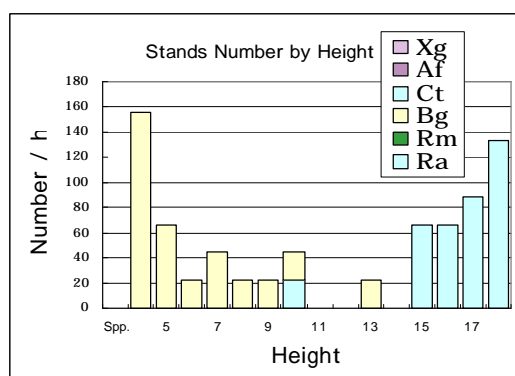


DBH Class

Size	Ra	Bg	Tot
small	0	222	222
midle	22	133	156
big	0	22	22
large	356	0	356
tot	378	378	756

図 2-2U-22 樹種別直径別立木本数 (Plot A) (Plot No 45, Comp. 302M9)

くの *B. gymnorrhiza* である。



Height Class

Spp	Low	Mid	Tall	High	Total
Ra	0	22	0	356	378
Bg	311	44	22	0	378
Tot	311	67	22	356	756

図 2-2U-23 樹種別樹高別立木本数 (/ha)(Plot A) (Plot No 45, Comp. 302M9)

プロット A は上層木が直径 28cm 以上の *R. apiculata* の純林で ha 当たり 356 本が数えられた。中下層は直径 16cm 以下の *B. gymnorrhiza* と僅かな *R. apiculata* で ha 当たり 378 本となっており上層木と中下層木の ha 当たり本数はほとんど同数となっている。材積は ha 当たり 265m<sup>3</sup> であった。図 2-2U-22, 23 及び 24 にこの標本地の直径階別、樹高階別の本数

構成を示す。

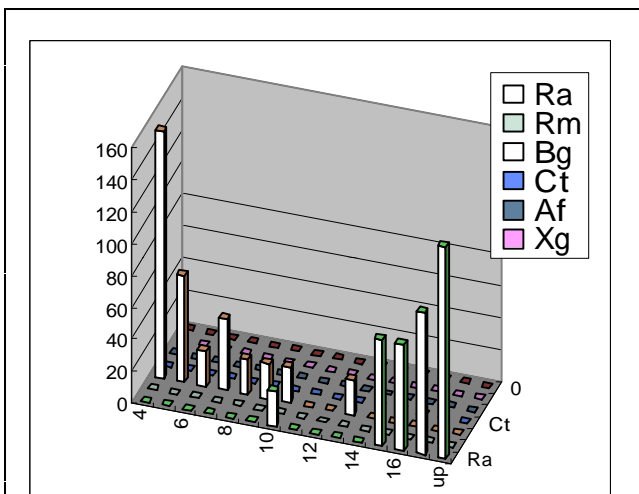
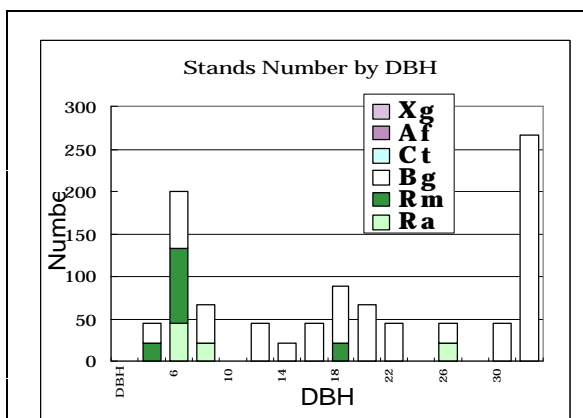


図 2-2U-24 樹種別樹高別立木本数 ( /ha)(Plot A) (Plot No 45, Comp. 302M9)



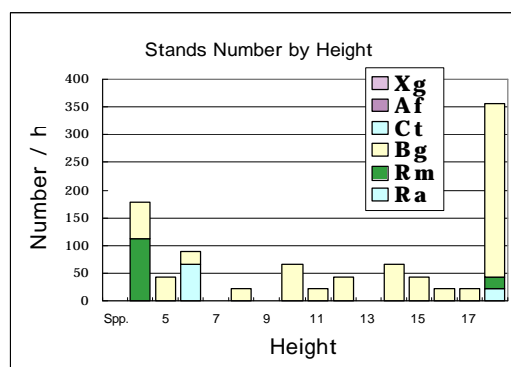
図 2-2U-25 標本地 写真 R.a 林 (Plot A)

Plot B は *B. gymnorhiza* の優占する林分で、*R. mucronata*, *R. apiculata* が上層木、下層木にわずかに混入している。樹高は 22m に及び、海岸地帯樹高の高い林分が続いていることがわかる。図 2-2U-26, 27 及び 28 にこの標本地の直径階別、樹高階別の本数構成を示す。



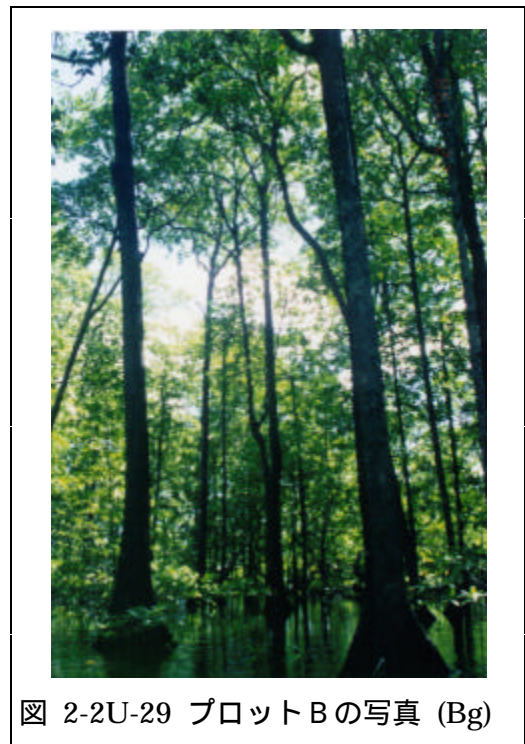
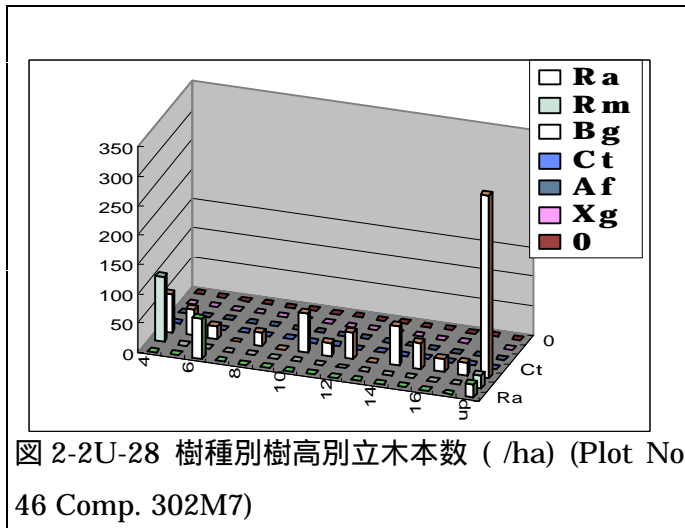
Size	Ra	Rm	Bg	Tot
small	67	111	133	311
midle	0	0	67	67
big	0	22	178	200
large	22	0	378	400
tot	89	133	756	978

図 2-2U-26 胸高直径別立木本数 ( /ha)(Plot No 46 Comp. 302M7)



	Low	Mid	Tall	High	Total
Ra	67	0	0	22	89
Rm	111	0	0	22	133
Bg	156	89	111	400	756
Tot	333	89	111	444	978

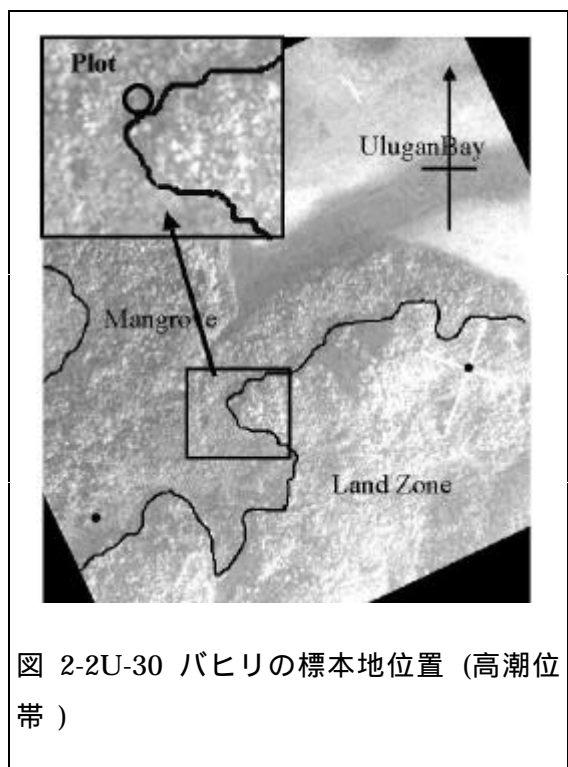
図 2-2U-27 樹高別樹種別立木本数 ( /ha) (Plot No 46 Comp. 302M7)



次に、ウルガン 湾 地域では面積的にはごく限られている高潮位帯の植生を記録している2つの標本地データを掲げる。最初の標本地は、バヒリ 地区、ウマラガン川沿いのマングローブ 地域陸域辺

縁部での例である。優占樹種は *R. apiculata* で下層を埋め尽くしている。樹高は 4-6m に減少し数本の *A. floridum*、樹高 6-10m が目立つ林層を呈している。図 2-2U-30 に標本地の位置を、表 2-2U-1、図 2-2U-31、32 に林分構成に関するデータを示す。標本地内に見られた最大の木は直径 47cm、樹高 7m の *A. floridum* であった。

高潮位帯 の第2の例は、ウルガン 湾北部東岸のタグニッパの陸域辺縁部に設定された。図 2-2U-34 に標本地の位置を示す。上層木は依然として *R. apiculata* であるが、この中に *B. sexangula*, *X. granatum* がかなりの頻度で出現



している複層林である。標本地は *R. apiculata* 地帯から高潮位帯への移行部分に相当するものと考えられる。上層木の樹高は 16-19m、直径(DBH)は 30-36cm におよび、小さな伐根があることから、伐採された経緯があると見られる二次林ではあるが、良好に回復しつつあると考えられる。図 2-2U-35,及び 36 にこの標本地の林分構成に関するデータを示す。

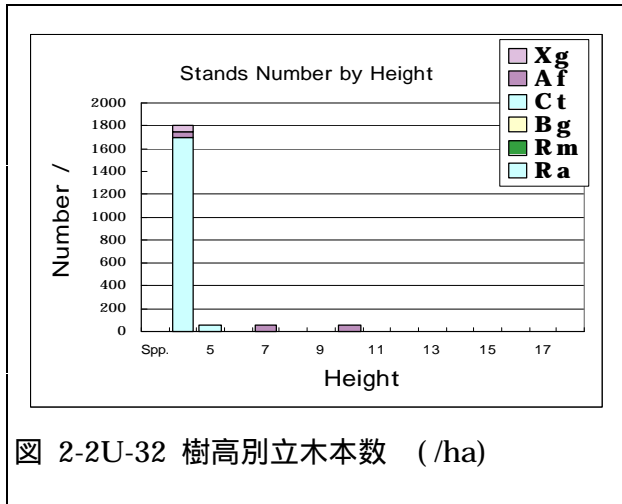


図 2-2U-32 樹高別立木本数 (/ha)

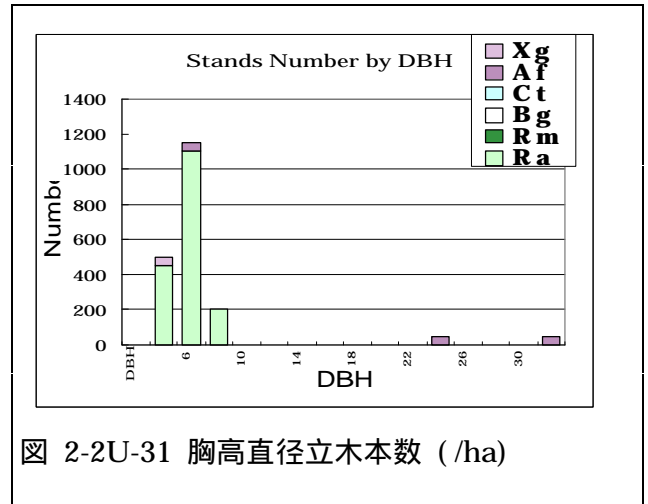


図 2-2U-31 胸高直径立木本数 (/ha)

表 2-2U-1 樹高階別立木本数 (/ha)

Size	Ra	Af	Xg	Tot
small	1750	50	50	1850
middle	0	0	0	0
big	0	0	0	0
large	0	100	0	100
tot	1750	150	50	1950

直径階別立木本数(ha)

	Low	Mid	Tall	High	Total
Ra	1750	0	0	0	1750
Af	100	50	0	0	150
Xg	50	0	0	0	50
Tot	1900	50	0	0	1950

最後にウルガン 湾 東岸部に広がっている二次林での標本地 例 を掲げる。二次林と言っても最近 20 年はほとんど伐採されていないマングローブ林で、樹高は 10-16m、胸高直径は 6-16cm、成立本数は ha 当たり 3000 本を超える閉鎖した若い林である。20 年以前に伐採されなかった古木もかなり残っている部分も多い。樹種構成は原生林とほとんど同じで、*R. apiculata*、または *R. mucronata* が優占するものが多い。過去の伐採は海側から集材をしていたこともあり海岸から中潮位地帯にこのような二次林が多く分布している。図 2-2U-37 に標本地の位置を示す。標本地は、タグニッパの養魚池に隣接する場所で、養魚池 開発と平行して商業伐採が行われた場所である。 図 2-2U-38 及び 39 に林分構成データを示す。

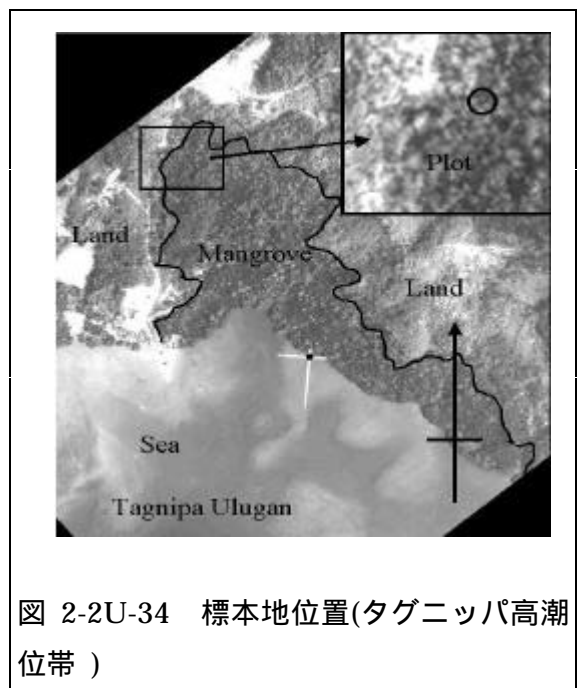
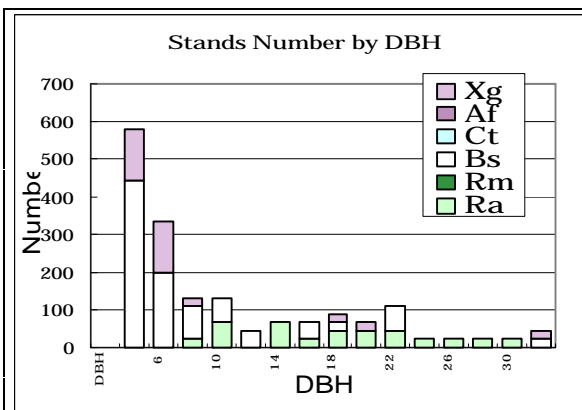
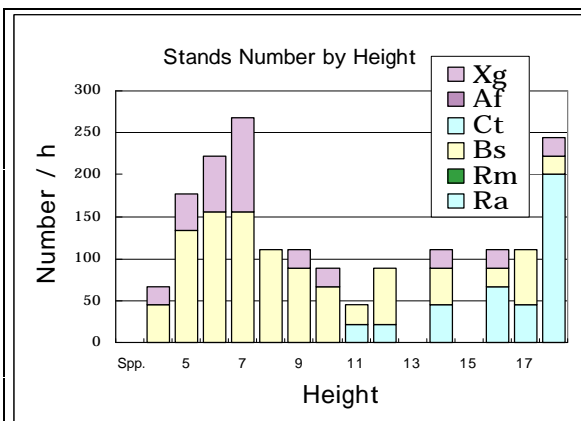


図 2-2U-34 標本地位置(タグニッパ高潮位帯)



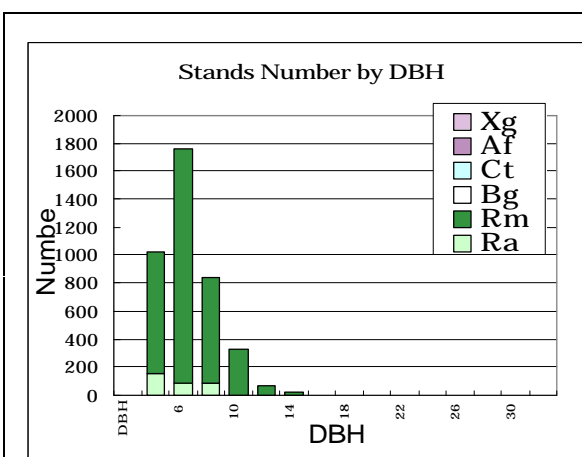
Size	Ra	Bs	Xg	Tot
small	22	733	289	1044
mid	133	111	0	244
big	111	67	44	222
large	133	89	22	244
tot	400	1000	356	1756

図 2-2U-35 胸高直径別立木本数 ( /ha)  
Plot No 49 Comp. 201M4



	Low	Mid	Tall	High	Total
Ra	0	22	67	311	400
Bs	600	178	111	111	1000
Xg	244	44	22	44	356
Tot	844	244	200	467	1756

図 2-2U-36 樹高別立木本数 ( /ha)Plot No  
49 Comp. 201M4



Size	Ra	Rm	Tot
small	333	3289	3622
midle	0	422	422
big	0	0	0
large	0	0	0
tot	333	3711	4044

図 2-2U-38 胸高直径別立木本数 ( /ha) Plot  
No 51 Comp. 202M5

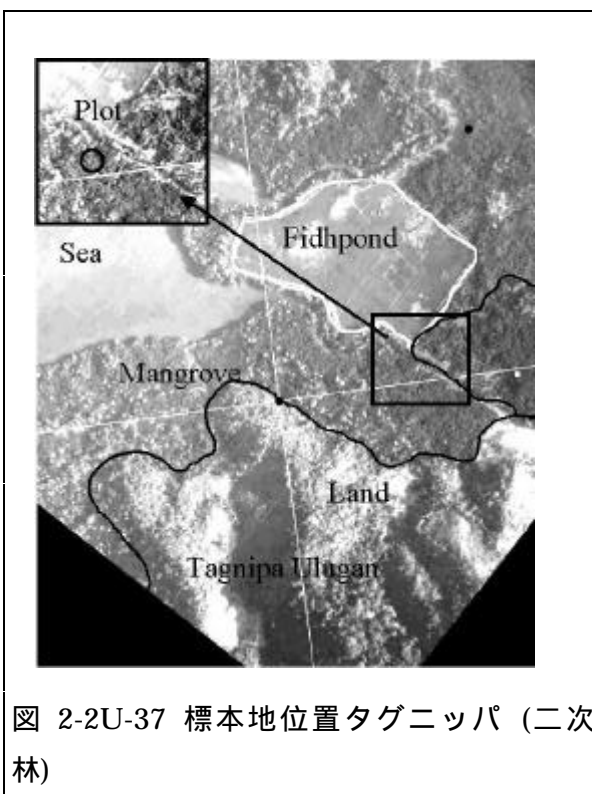


図 2-2U-37 標本地位置タグニッパ (二次  
林)

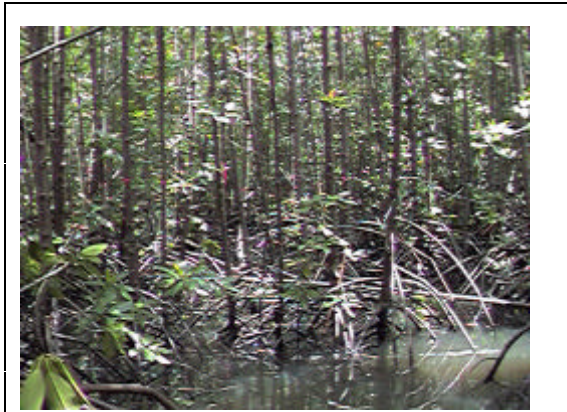
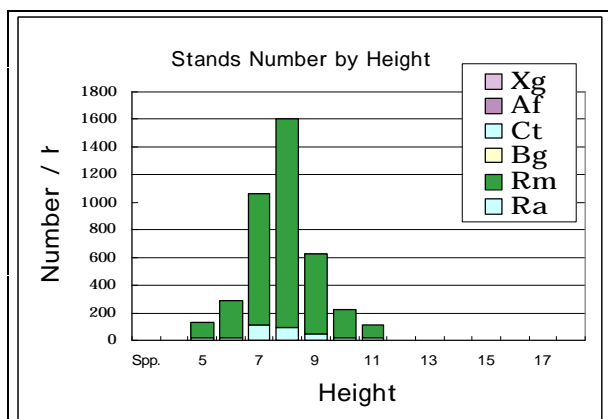


図 2-2U-40 標本地 写真 ( 二次 林)

標本地は川岸に位置していることもあってか *R. mucronata* が優占している。樹高は 7-9m、胸高直径 6cm の若木が最も多く、太くても直径 14cm 以下である。



	Low	Mid	Tall	High	Total
Ra	244	89	0	0	333
Rm	2844	867	0	0	3711
Tot	3089	956	0	0	4044

図 2-2U-39 樹高立木本数 ( /ha) Plot No 51  
Comp. 202M5

以上ウルガン 湾 地域のマングローブ林を調査分析し、植生型から見たマングローブ林 の分布状況と立地条件の関係、航空写真上の映像パターンとの比較、その面的広がり、隣接するパターンとの写真上での区分の可能性を総合的に判断し、ウルガン 湾 地域におけるマングローブ林を、主として樹高の違いに着目し、以下の4つのグループに区分し、同質林を小班にまとめることとした。これは、ラモン湾 地域の場合と異なり、ウルガン 湾 地域 では、大部分の地域が、*R. mucronata*, *R. apiculata*, *B. gymnorrhiza* の3樹種が潮位及び小河川の変化に対応して小面積に群状に分布しており、全体としては群状混交林をなしているためである。

- URB: *R. apiculata* あるいは *R. mucronata* 及び 中高木 *B. gymnorrhiza* が海岸線から中潮位地帯にかけて連続的に変化している区域。
- UTR: *R. apiculata* の高木が優先している区域。
- UXH: 高潮位マングローブ樹種である *X. granatum*, *H. littoralis*, *E. agallocha* が生育する区域。
- UMR: 中高木の *R. apiculata* が密生している区域。

上述の区分 c.の高潮位帯は一般的にはごく狭い範囲で出現するため、マングローブ林分布地図では区分表示することが困難な場合が多い。この場合実際には区分表示せず、隣接の小班にふくめ、森林調査簿の備考欄に何らかの記載を加えることで対処した。

航空写真の解析により上述の各タイプ毎の面積が計算された。面積は GIS による図面を



基にコンピュータによって算出された。結果を表 2-2U-2 及び図 2-2U-41 に掲げる。ニッパ林を含む元々のマングローブ地帯の合計面積（既存のマングローブ・ニッパ林 + 養魚池）は 812.85 ha である。この内 2%にあたる 15.80 ha が養魚池に転換されている。

大径木の *R. apiculata* が優占しており、UTR に区分した林分は 115.37 ha（養魚池内のマングローブ林を含まないマングローブ林の 15%に相当する。）であった。最も面積の多いタイプは URB に区分した *R. apiculata*, *R. mucronata*, 及び *B. gymnorrhiza* が混交している地域（421.07 ha/ 53%）で、その次は UMR に区分した URB タイプの二次林(198.83 ha/ 25%)であった。高潮位マングローブタイプの UXH として区分できたものは 55.74 ha / 7%であった。

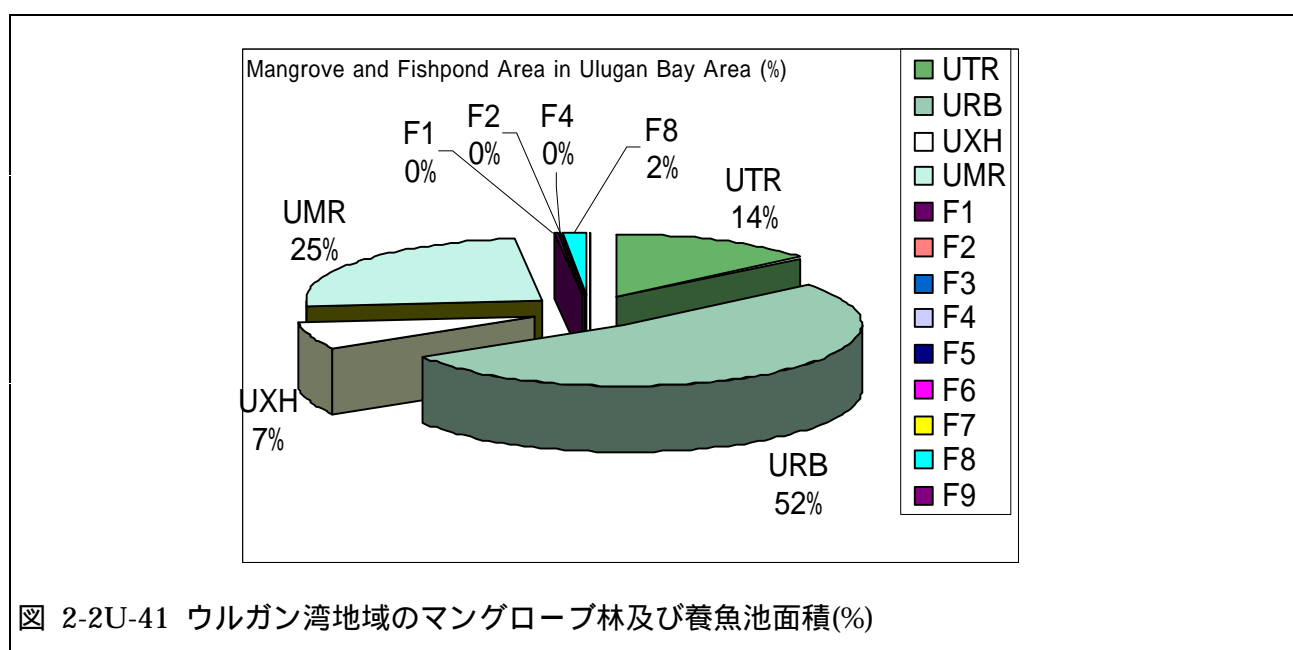


表 2-2U-2 ウルガン湾地域地区毎のマングローブ、養魚池面積(ha)

Mangrove area in Ulugan Bay Area

		(ha)				
		Talonayan	Tagabunit	Macarascas	Bahile	Total
Mangrove	UTR	7.18	17.85	65.02	25.32	115.37
	URB	32.7	110.27	168.84	109.26	421.07
	UXH	0	30.39	12.73	12.62	55.74
	UMR		83.55	73.32	41.96	198.83
	sub Total	39.88	242.06	319.91	189.16	791.01
Fishpond	F1		1.41			1.41
	F2					0
	F3					0
	F4					0
	F5					0
	F6					0
	F7					0
	F8		14.39			14.39
	F9					0
Total		0	15.80	0	0	15.80
Others		0	1.38	4.66	0	6.04
G Total		39.88	259.24	324.57	189.16	812.85

(%)

		Taronayan	Tagabi.	Macara.	Bahili	Total
Mangrove	UTR	18.0	7.4	20.3	13.4	14.6
	URB	82.0	45.6	52.8	57.8	53.2
	UXH	0.0	12.6	4.0	6.7	7.0
	UMR	0.0	34.5	22.9	22.2	25.1
Total		100	100	100	100	100

(ha)

		Taronayan	Tagabi.	Macara.	Bahili	Total
Mangrove area total		39.88	242.06	319.91	189.16	791.01
Fishpond area total		0	15.8	0	0	15.80
Other area total		0	1.38	4.66	0	6.04
Grand total		39.88	259.24	324.57	189.16	812.85

(%)

		Taronayan	Tagabi.	Macara.	Bahili	Total
Manrove area total		100.0	93.4	98.6	100.0	97.3
Fishpond area total		0.0	6.1	0.0	0.0	1.9
Other area total		0.0	0.5	1.4	0.0	0.7
Grand total		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Consideration on Mangrove Forest Distribution Categorizing

Vegetation Type Area (Dominant Species)	Landscape Condition						Soil	Salinity	Stands Condition						Occupied Area	
	Inter tidal level		Estuarine Location		Location	Character Depth			Crown size			Tree height				
	High	Middle/Low	Up	Middle/Down					No	B	M	S	N	H		M
Rm	█	█	█	█	█	On River side and river mouth	Sandy/ Thin Clay	█	█	█	█	█	█	█	█	Narrow sea side and river side part.
Bg	█	█	█	█	█	Middle part of in tidal zone	Silt/Cra Thick	█	█	█	█	█	█	█	█	Narrow parts within Ra.
Ra & Rm	█	█	█	█	█	On all around	Silt/Cra Thick	█	█	█	█	█	█	█	█	From seaside to approaching landward, broadly expanding.
Ra	█	█	█	█	█	On all around	Sandy/ Thick/ Clay Middle	█	█	█	█	█	█	█	█	From seaside to approaching landward, broadly expanding.
Xg, Hl, & Af	█	█	█	█	█	On land ward fringe	Sand silt	█	█	█	█	█	█	█	█	Narrow band onland-ward fringe.

Vegetation Type (Dominant Species)	Possibility to identify on aerial photo graph and draw on 1:10,000 map	Size of Areas by Vegetative types	Mangrove forest Types on Map	Explanation of Mangrove forest types
Rm	Difficult, too narrow.		Marge to surrounded sub compartment	
Bg	Difficult too small patche.		URB	Ra or Rm and Bg middle height stands are continuously changing from seashore to middle tidal zone.
Ra & Rm	Difficult to divide from Ra, Bg, or Rm.		UMR	Middle height Ra is dominantly spreading area.
Ra	Possible but only in case of original forest.		UTR	Tall Rhizophora apiculata are dominated
Xg, Hl, & Af	Possible but only wider part.		UXH	High intertidal mangrove species such as Xg, Hl, Ea are growing

図 2-2U- 42 ウルガン 湾地域マングローブ植生と森林タイプ区分

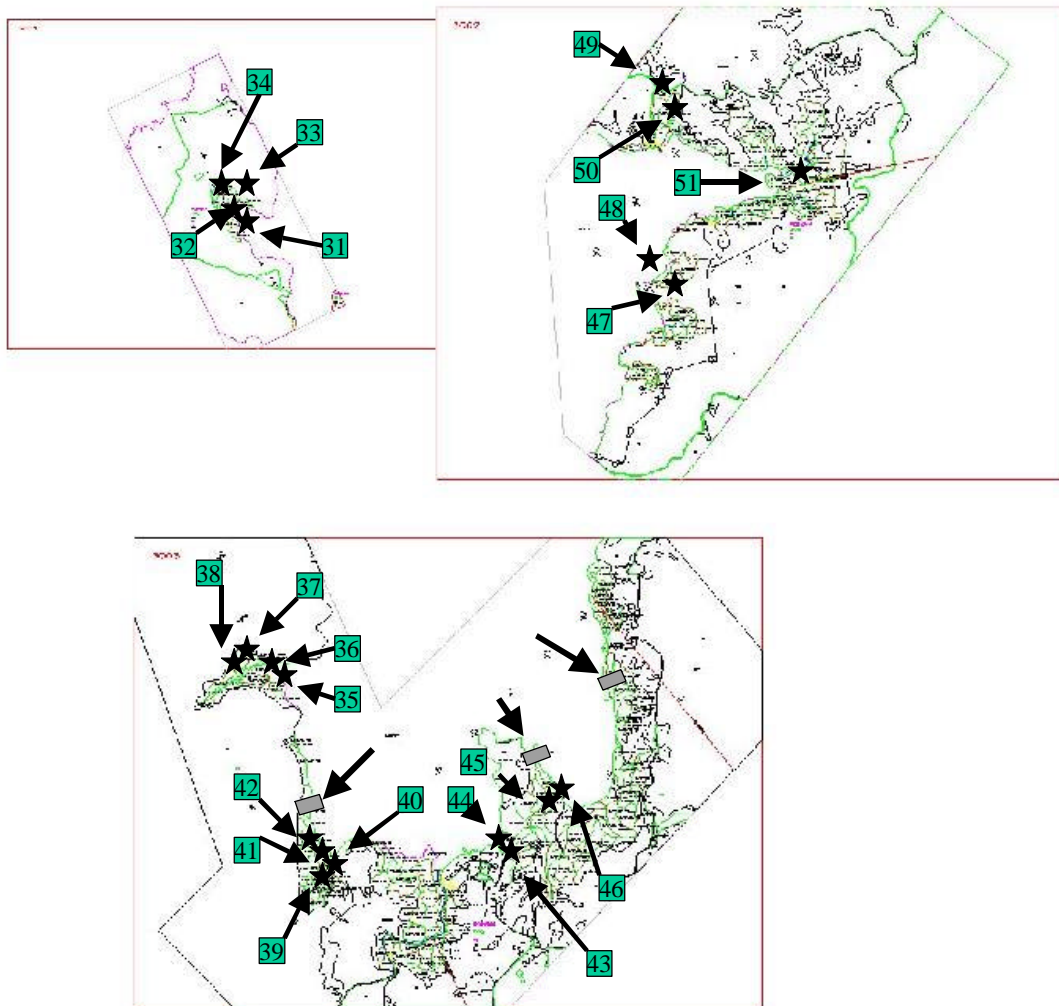


図 2-2U-43 帯状調査・標本調査位置図 ウルガン 湾地域

### 2-4-3 ウルガン湾地域の社会経済条件

#### 2-4-3-1 州レベル

ウルガン湾地域が位置するパラワン州は、北部にブサング諸島、北東部にアグタヤ諸島、東にカガヤンシロ島、南部にバラバックを有し、西海岸を南シナ海に面するパラワン本島と周辺諸島の計 1,768 の島からなる、フィリピン第 2 の面積を有する州である。パラワン州の諸島は複雑な海岸線を有し、ミンドロ島から北ボルネオ諸島を結ぶ形で 650km にわたり点在している。パラワン本島は南北に 425 km の長さを持ち、中央部を山脈が走りその地形を東海岸、西海岸に区別している。東海岸は細い平地、湿地帯からなり山脈側に沿って丘陵地、溪谷をなしている。西海岸は海岸に至るまで険しい山岳地帯、丘陵地帯から成っている。パラワン州の総面積は 14,896.55 平方キロであり、1995 年時点での州人口は 640,486 人である。

パラワン州の主要産物は 1 ) 米・コーン、2 ) 水産物、3 ) カシューナッツである。1994 年統計におけるパラワン州民の平均年収は 49,327 ペソである。

パラワン州の社会経済概況を表 2-4-1 に示す。

#### 2-4-3-2 町レベル

調査対象地域であるウルガン湾地域は州で唯一の市であるプエルト・プリンセサ市の行政区域内に位置している。

##### 1) 特徴

プエルト・プリンセサ市はパラワン本島のほぼ中央部に位置し、市面積は 253,982 ha であり計 66 の村に分割される。1995 年時点での市人口は 129,557 人であり、農業、漁業、サービス業が市産業の中心である。

表 2-2U-3 社会経済概況			
パラワン州			
<b>1. 一般状況</b>			
面積 (ha)		14, 896. 55平方キロ	
市の数		1 (フェルト・プリンセサ市)	
町の数		23	
村の数		431	
人口 (総数)		640, 486 (1996年統計)	
就労人口		37, 900	
(職業別人口)	- 農業	70. 29%	
	- サービス業	21. 76%	
	- 製造業	7. 95%	
州民平均年収		49, 327ペソ	
州民平均支出		41, 001ペソ	
<b>2. 生産物</b>			
1) 農業	- 米	59, 300 ha	139, 565トン
	- カシューナッツ	21, 508 ha	24, 994トン
	- ココナツ	54, 967 ha	57, 089トン
	- コーン	23, 865 ha	45, 303トン
2) 林業	- ラタン	861, 900m	
	- アルマシガナツ	69, 340m	
	- 竹	165, 830本	
3) 漁業	- 商業漁業	18, 325トン	
	- 町漁業	61, 522トン	
	- 養殖	350トン	
4) 畜産業	- カラバオ (水牛)	30, 560頭	
	- 牛	20, 500頭	
	- 豚	100, 000頭	
	- 山羊	36, 000頭	
	- 鶏	469, 434羽	
	- 家鴨	37, 741羽	
<b>3. 基盤施設</b>			
運輸	- 道路	総計4, 022. 2km (内舗装道路総計366. 5km)	
	- 港湾	41ヶ所	
	- 空港	21ヶ所 (私用、軍用を含む)	
通信	- 電話会社	5社	
	- テレビ局	3局	
電力	- 総発電力	22. 41メガワット	
	- 供給世帯数	38, 936戸	
村落給水	- 井戸	15, 802ヶ所	69, 606戸
	- 共同水栓システム	54システム	4, 735戸
	- 各戸給水システム	22システム	802戸
医療施設	- 病院	10 (公立), 3 (私立)	
教育施設	- 大学	2校(公立), 4校 (私立)	
	- 高校	69校	
	- 小学校	560校	
農業/漁業施設	- 棧橋	52ヶ所 (大/中規模), 43ヶ所 (小規模)	
	- 養魚池	24ヶ所 (養魚池貸付契約) (総面積1, 429ha)	
	- 灌漑施設	1国営システム, 49共同システム	
	- 作物倉庫	10ヶ所(国家食糧庁), 50ヶ所 (民間)	
出典 : 1996 州社会経済統計, パラワン州政府事業計画実施局			

## 2) 開発政策 / 戦略

パラワン市事業計画発展局の「1998 年年間投資計画」によれば、開発の重点目標は 1) 貧困撲滅、2) 環境保全、3) 観光開発、4) 基本社会サービス、5) 生産基盤施設改善、6) 投資拡大、並びに 7) 地方自治体の機能強化である。

### 2-4-3-3 村レベル

調査対象地域は下記の 5 村に位置している。

- 1) マカラスカス
- 2) バヒリ
- 3) ブエナビスタ
- 4) タガビニット
- 5) カバユガン

#### (1) 社会経済状況

##### 1) 人口

これら調査対象地域の村の家屋数は平均して 1 村あたり約 230 戸であり、平均世帯人数は 5 人以下である。ウルガン湾地域の 5 村において計 200 戸を抽出して実施したインタビュー調査に基づく社会経済調査によれば、一家庭あたり平均構成員数は 5.3 人（最大はタガビニット村の 6.1 人、最小はブエナビスタ村の 4.4 人）である。また、年齢層分布は下表 2-2U-4 のとおり。

##### 2) 収入源、生産物及び流通

調査した 5 村において主要な生計手段は水産業であり、稲作がそれに続く。しかしながら農産物はほとんどが家庭内消費であり、余剰が派生した場合のみ市場へ出荷している。

表 2-2U-4 ウルガン湾地域年齢別分布

年齢層	ウルガン湾地域 5村(%)	フィリピン 全国平均(%)
0～4才	13.6	13.7
5～9才	16.4	13.0
10～14才	12.3	11.7
15～19才	11.5	10.9
20～24才	8.3	9.1
25～29才	6.8	8.4
30～34才	6.5	7.1
35～39才	6.2	6.3
40～44才	4.8	5.0
45～49才	3.8	4.0
50～54才	3.2	3.0
55～59才	2.7	2.5
60～64才	2.0	1.9
65才～	1.8	3.5

漁業はカラパト等の海水魚が中心であり、他の2調査地域と比較してエビ、カニ等の養殖は限られている。これら5村の住民のほとんどは、商業ベースのジープニーが市の中心まで運行していることからその漁獲物をプエルト・プリンセサ市まで運搬して販売している。

社会経済調査の結果によれば、当地域の労働人口の32.4%が漁業、21.8%が農業に従事しており、月平均収入は4,946.90ペソ、支出は4,159.30ペソである。この月平均収入4,946.90ペソは、パラワン州の属する第4管区の貧困ライン収入（平均人数の家庭が月2,000カロリーを確保するのに必要最低限の収入）5,523.92ペソの0.75倍であり、首都圏を除くフィリピン全国平均貧困ライン収入の4,813.28ペソの1.03倍である。また、商業遠洋漁業を除くフィリピンの漁業従事者（近海、沿岸、内水面および養殖）の月平均収入5,443.69ペソの0.91倍にあたる。雇用形態では自営が77.4%、賃金労働（常勤雇用）が9.5%、賃金労働（臨時）が13.2%である。本調査地域においてこれら漁業、農業



を営む家庭の収穫物の平均 100% は自己消費されている。また、51.5% 住する村落内で生産物を販売しており、この数字は今回の調査対象 3 地域中極めて大きい 39.0%、ラモン湾地域 25.0% )、また、39.5% 仲買人が来ると回答している。

3)

これら 5 村は村間およびプエルト・プリンセサとの交通に主としてジープニーを使用し、5 村すべてが電化されておらず、住居 (村落共同または自家) に依存している。ほとんどの村においては泉を生活用水の水源としている。各村にある精米所やマカラスカス村の棧橋を除き、生産基盤施設 5 村のうち 3 村に高等学校がある。診療所、託児所や集会場、教会は 5 村すべてに見られる。

社会経済調査の結果によれば、当該地域の家庭の 90% は居住している家屋を所有しており、電化率は 89.3% (公共発電機を含む)、生活用水は 89.3% 有している。また、60.7% (アパリ地域 97.5% )、40% )、

#### 住民組織

宗教団体と婦人会を除き、これらの地域では住民組織は極めて少ない。5 村のみ多目的協同組合が結成されているが、資金は最小限であり、参加者に対する小規模のうちの 25.7% を受けている家庭数は 11.9%

これら 5 村全体の社会経済概況調査結果、ならびに 200 年表 2-2U-5 2-2U-6 に集約される。

表 2-20-5 ウルガン湾地域村落社会経済概況

項目	村落名	Bahile	Macarascas	Cabayugan	Buenavista	Tagabinit
1. 人口		330戸 4.87人	220戸 5.01人	289戸 4.98人	109戸 4.86人	195戸 3.8人
a. 家屋数		330戸	220戸	289戸	109戸	195戸
b. 平均世帯人数		4.87人	5.01人	4.98人	4.86人	3.8人
2. 生産基盤施設		泉 - 1ヶ所 河川取水 - 1ヶ所 深井戸 - 6ヶ所 電化率0% 発電機 - 1台 糖米所 - 4ヶ所 様商待合所 - 1ヶ所	泉 - 1ヶ所 深井戸 - 6ヶ所 電化率0% 発電機 - 1台 糖米所 - 1ヶ所	泉 - 2ヶ所 深井戸 電化率0% 発電機 - 3台 糖米所 - 3ヶ所	泉 - 1ヶ所 深井戸 - 2ヶ所 電化率0% 発電機 - 1台 糖米所 - 1ヶ所	泉 - 5ヶ所 電化率0% 発電機 - 1台 糖米所 - 1ヶ所
3. 社会基盤施設		小学校 - 1校 高校 - 1校 託児所 - 3ヶ所 診療所 - 1ヶ所 集会所 - 1ヶ所 教会 - 2ヶ所	小学校 - 1校 高校 - 1校 託児所 - 1ヶ所 診療所 - 1ヶ所 幼稚園 - 1ヶ所 集会所 - 1ヶ所 教会 - 1ヶ所 教会 - 6ヶ所	小学校 - 1校 高校 - 1校 託児所 - 1ヶ所 診療所 - 1ヶ所 集会所 - 1ヶ所 教会 - 7ヶ所	小学校 - 1校 託児所 - 1ヶ所 教会 - 2ヶ所 集会所 - 1ヶ所 教会 - 2ヶ所	小学校 - 1校 託児所 - 2ヶ所 診療所 - 1ヶ所 集会所 - 1ヶ所 教会 - 2ヶ所
4. 平均年収		8,350ペソ	8,591ペソ	8,539ペソ	8,333ペソ	6,516ペソ
5. 生産物 (主要2産品)		該当無し	該当無し	該当無し	該当無し	1. アルマジガ (樹皮, レーズン)
a. 林業						
b. 漁業		1. Kalapato 2. Bukao	1. Kalapato 2. アジの仲間	1. Salay-Salay 2. Kalapato	1. Kalapato 2. アイゴの仲間	1. Isdang Bato 2. イカ
c. 農業		1. 米 2. コーン	1. 米 2. コーン	1. 米 2. モンゴ豆	1. 米 2. コブラ	1. 米 2. コーン
d. その他		該当無し	該当無し	1. 蜂蜜 2. コーン	該当無し	該当無し
6. 主要市場・購入地		バヒリ村多目的 協同組合 農業協同組合 福祉女性 協会 (CWA) PTA	バエルト・プリンセサ市 Macarascas村多目的 協同組合	バエルト・プリンセサ市 福祉女性 協会 (CWA) PTA	バエルト・プリンセサ市 福祉女性 協会 (CWA) PTA 宗教団体	バエルト・プリンセサ市 農業・漁業 協同組合 福祉女性 協会 (CWA) PTA、宗教団体 老人会
7. 住民組織						
8. 関連法制度実施状況						
a. 沿岸環境計画		実施中	実施中	実施中	実施中	実施中
b. 私有地樹木伐採許可		該当無し	該当無し	該当無し	1ヶ所 - Ipil, Apitong	該当無し
c. 養魚池貸付契約		該当無し	該当無し	該当無し	該当無し	1ヶ所 - 50ha (エビ)
d. マングローブ植林事業		1ヶ所 - 100ha	1ヶ所 - 100ha	該当無し	該当無し	該当無し
e. マングローブ管理契約		1ヶ所 - 5.5ha	該当無し	該当無し	該当無し	該当無し
g. 総合社会林		該当無し	26ヶ所 - 69.02ha	14ヶ所 - 30.88ha	1ヶ所 - 0.25ha	27ヶ所 - 67.66ha